

2019 年度県政世論調査（これからの環境政策の方向性）の結果

1 概要

(1) 調査対象

愛知県内に居住する 18 歳以上の男女 3,000 人

(2) 回答者数

1,516 人（回収率 50.5%）

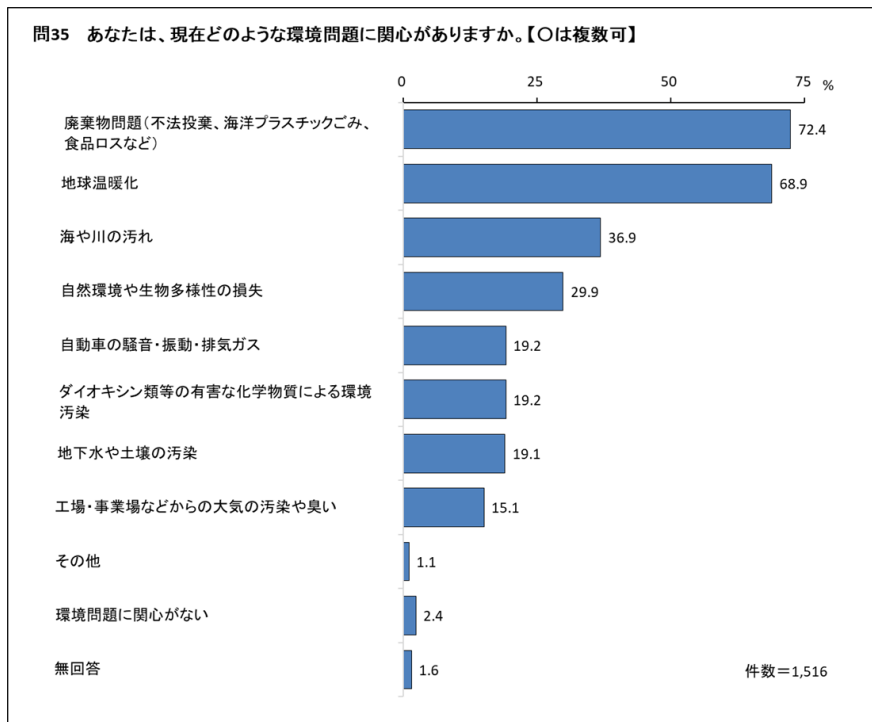
(3) 調査時期

2019 年 7 月 1 日～7 月 20 日

2 調査結果

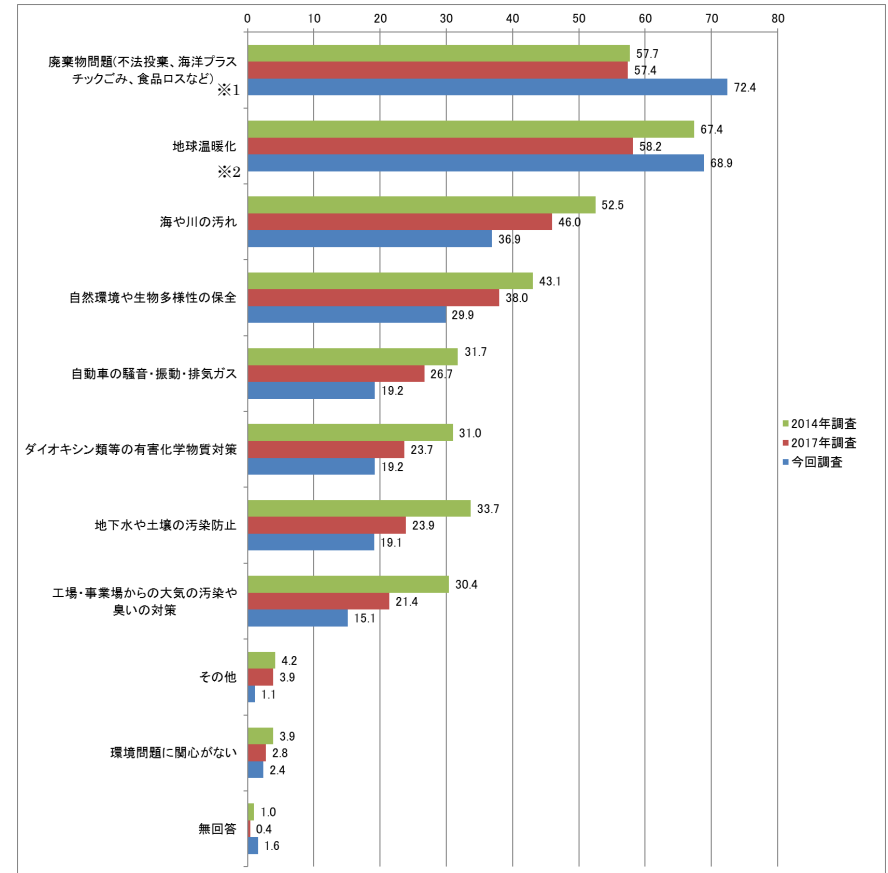
(1) 現在、関心のある環境問題

「廃棄物問題（不法投棄、海洋プラスチックごみ、食品ロスなど）」が 72.4%



現在、関心のある環境問題について、「廃棄物問題（不法投棄、海洋プラスチックごみ、食品ロスなど）」と答えた人の割合が 72.4%と最も高く、続いて「地球温暖化」（68.9%）、「海や川の汚れ」（36.9%）の順となっている。

過去の調査結果との比較



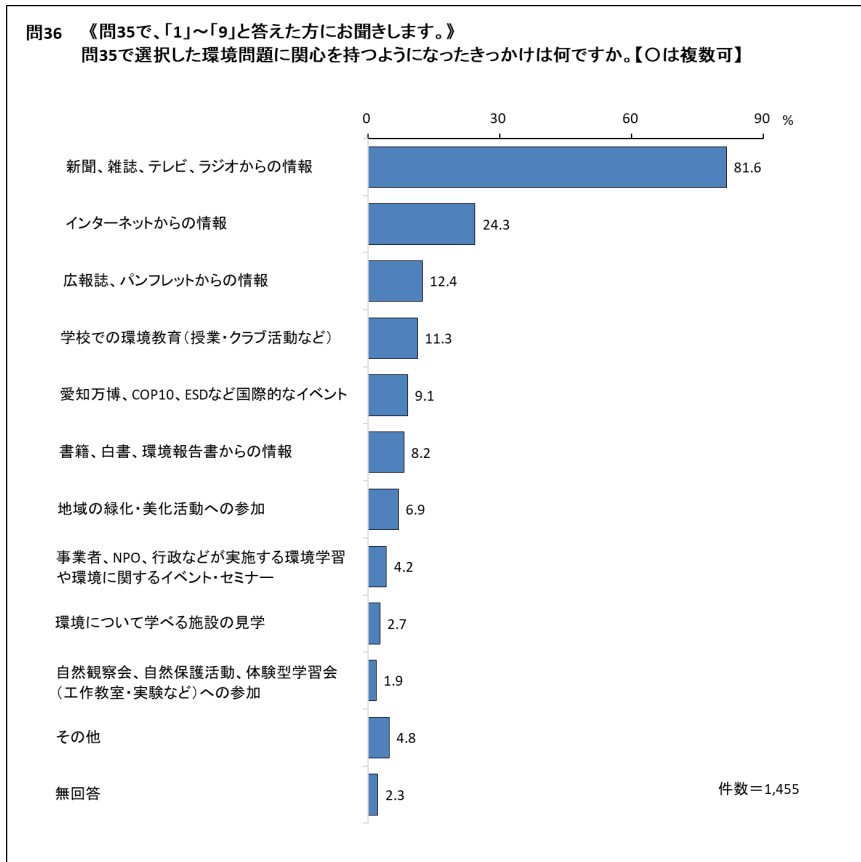
上位 5 位までの項目の比較

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
2014 年調査	地球温暖化	廃棄物	水質環境	自然環境	自動車環境
2017 年調査	地球温暖化	廃棄物	水質環境	自然環境	自動車環境
今回調査	廃棄物	地球温暖化	水質環境	自然環境	自動車環境

※1 2014 年調査及び 2017 年調査では「廃棄物（不法投棄、不適正処理、廃棄物量増加など）」となっている。
 ※2 2014 年調査では「地球温暖化や省エネルギーなど地球環境に関すること」となっている。

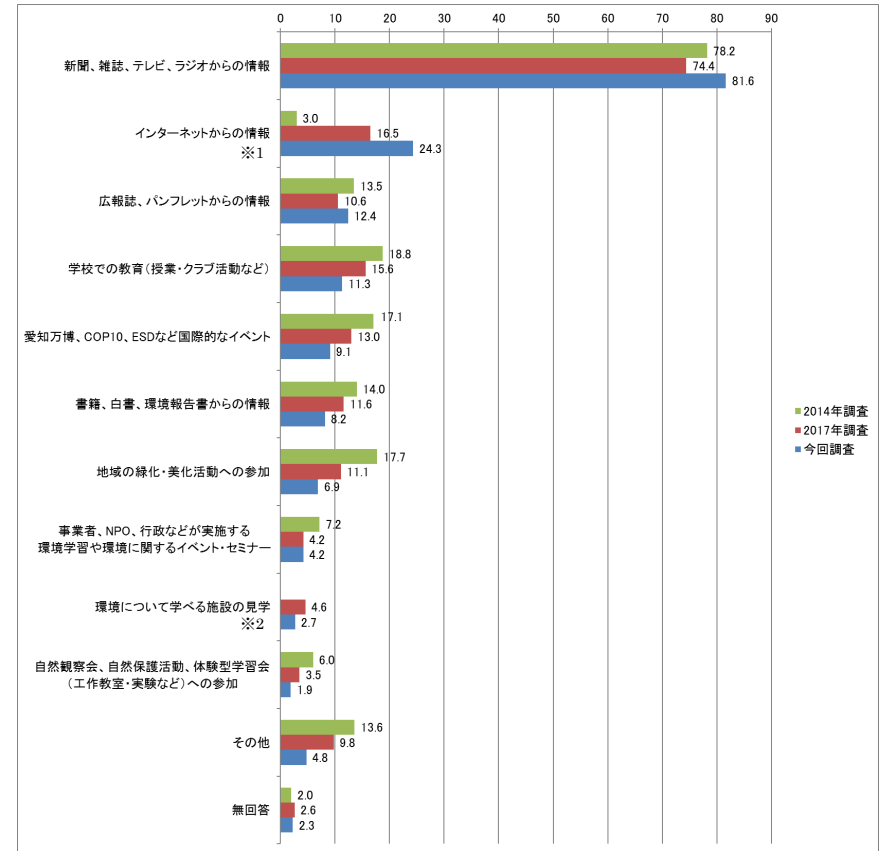
(2) 環境問題に関心を持つようになったきっかけ

「新聞、雑誌、テレビ、ラジオからの情報」が81.6%



環境問題に関心を持つようになったきっかけについて、「新聞、雑誌、テレビ、ラジオからの情報」と答えた人の割合が81.6%と最も高く、続いて「インターネットからの情報」(24.3%)、「広報誌、パンフレットからの情報」(12.4%)の順となっている。

過去の調査結果との比較



上位5位までの項目の比較

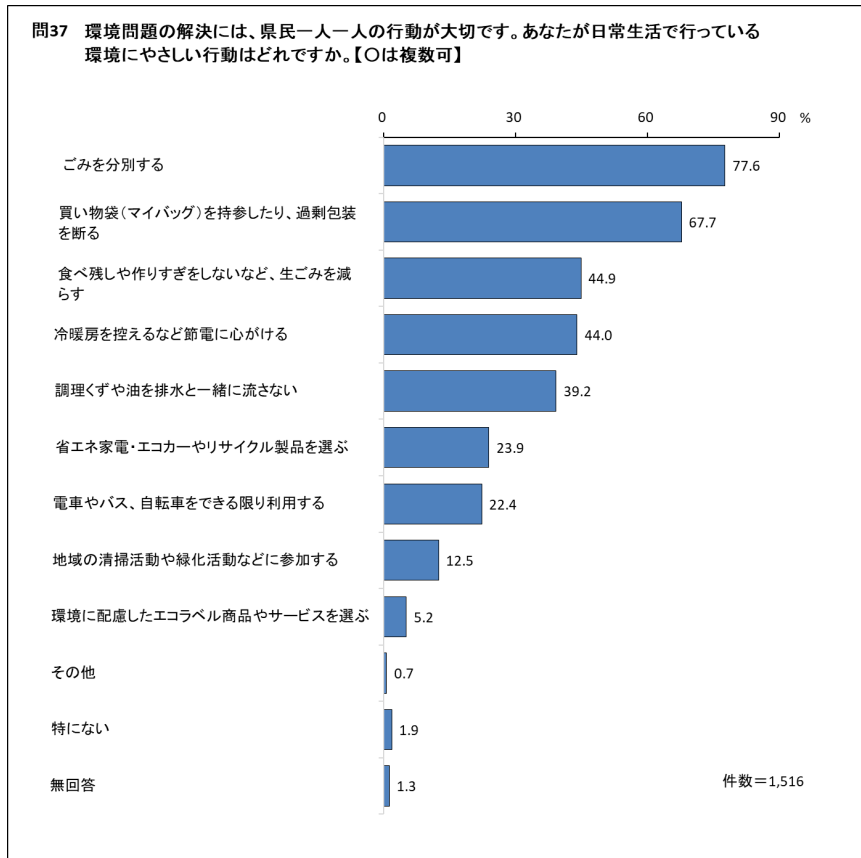
	1位	2位	3位	4位	5位
2014年調査	新聞、テレビ等	学校教育	地域活動	国際イベント	書籍
2017年調査	新聞、テレビ等	インターネット	学校教育	国際イベント	書籍
今回調査	新聞、テレビ等	インターネット	広報誌、パンフ	学校教育	国際イベント

※1 2014年調査では「環境に関するウェブページからの情報」となっている。

※2 2017年調査から追加した。

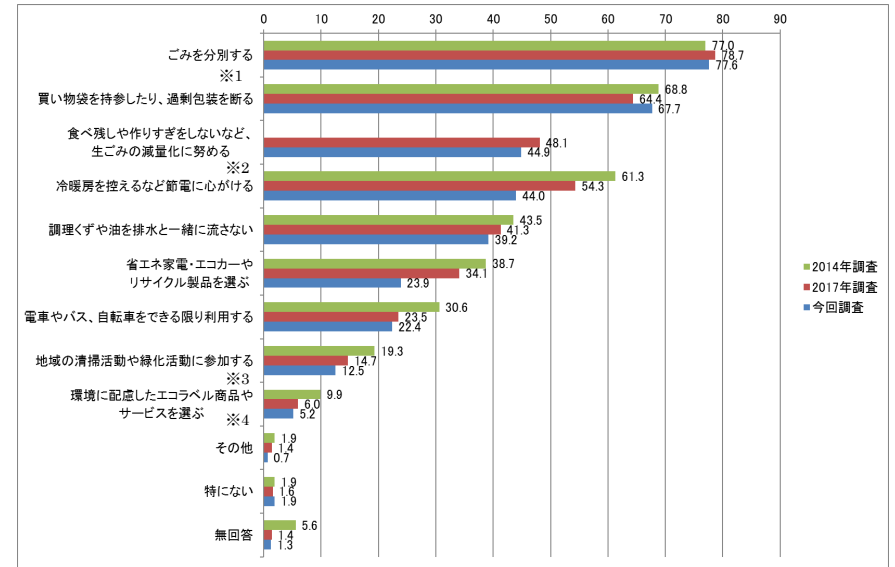
(3) 日常生活で行っている環境にやさしい行動

「ごみを分別する」が77.6%



日常生活で行っている環境にやさしい行動について、「ごみを分別する」と答えた人の割合が77.6%と最も高く、続いて「買い物袋(マイバッグ)を持参したり、過剰包装を断る」(67.7%)、「食べ残しや作りすぎをしないなど、生ごみを減らす」(44.9%)の順となっている。

過去の調査結果との比較



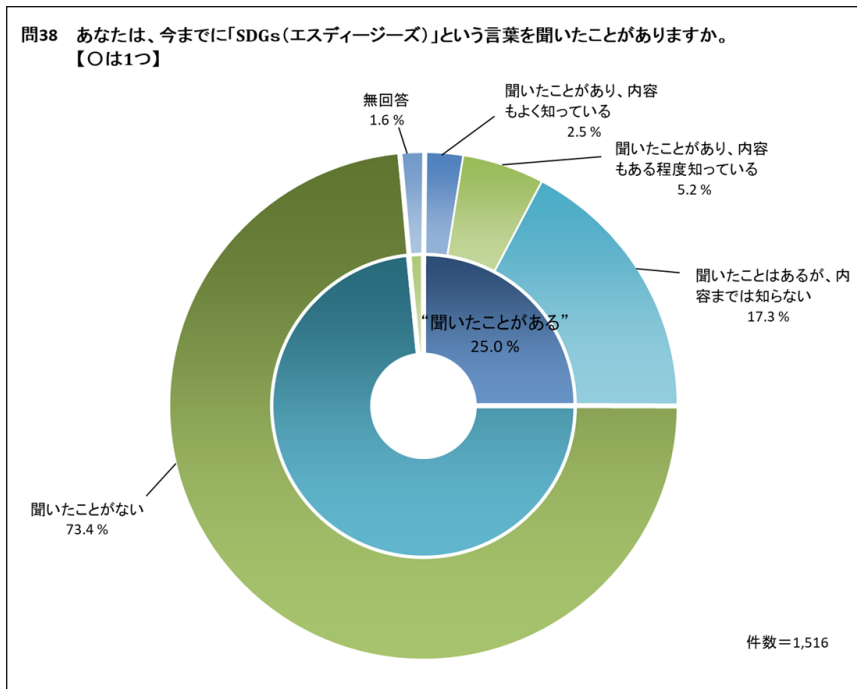
上位5位までの項目の比較

	1位	2位	3位	4位	5位
2014年調査	ごみの分別	買い物袋持参	節電	生活排水対策	グリーン購入
2017年調査	ごみの分別	買い物袋持参	節電	食品ロス削減	生活排水対策
今回調査	ごみの分別	買い物袋持参	食品ロス削減	節電	生活排水対策

- ※1 2014年調査及び2017年調査では「ごみを分別して捨てる」となっている。
- ※2 2017年調査から追加した。
- ※3 2014年調査及び2017年調査では「地域の清掃活動など環境保全活動に参加する」となっている。
- ※4 2014年調査及び2017年調査では「エコラベル等のついた環境に配慮した製品を選ぶ」となっている。

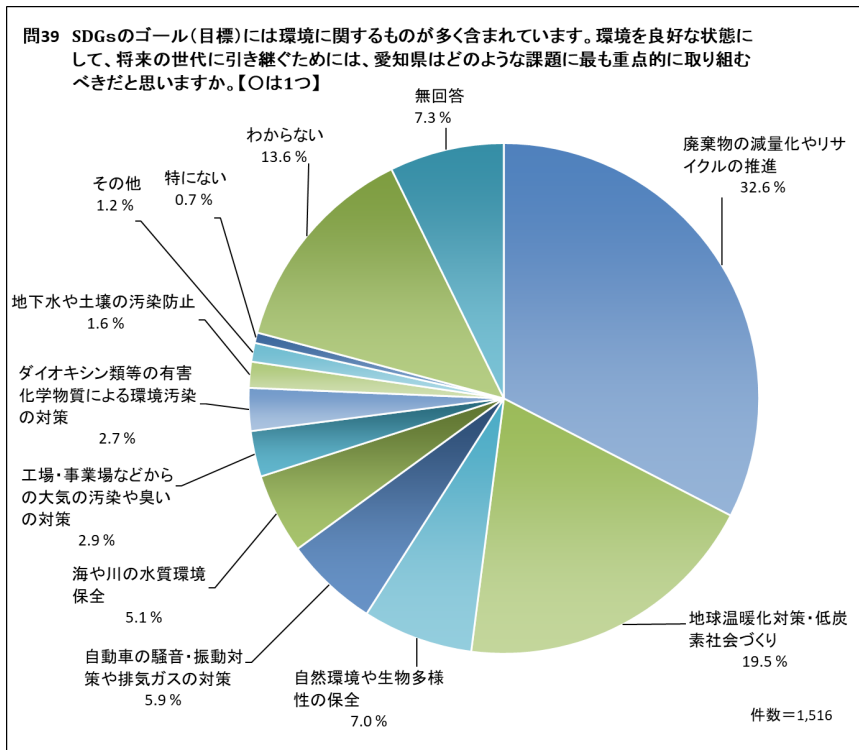
(4)「SDGs」の認知度

「聞いたことがない」が73.4%



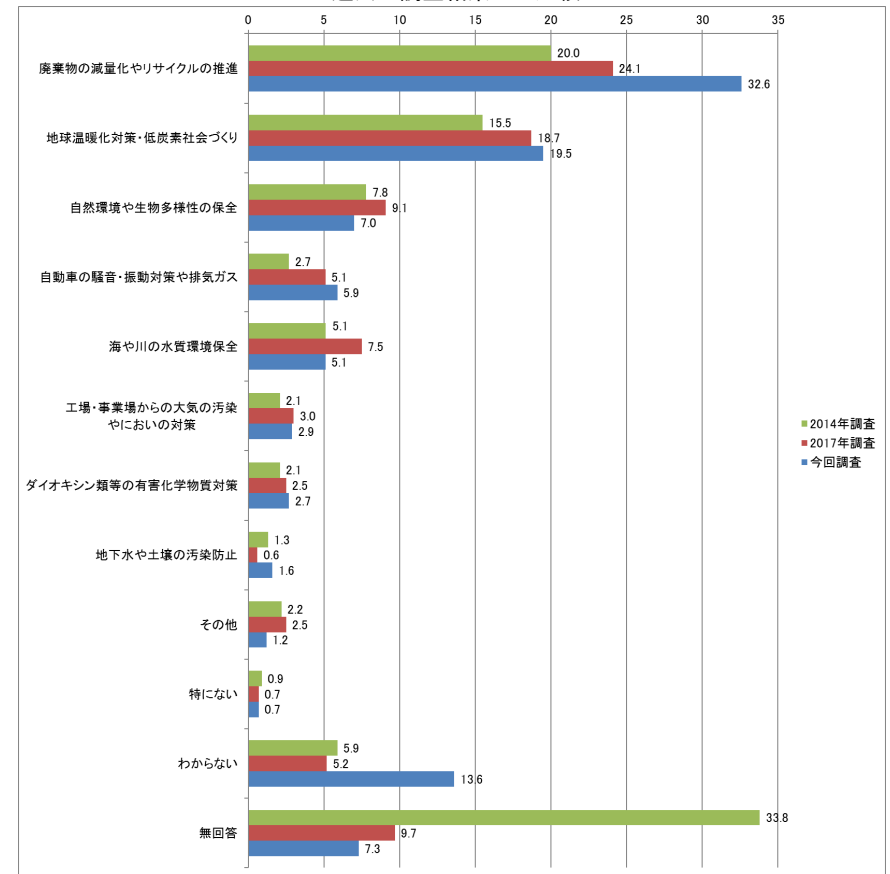
「SDGs(持続可能な開発目標)」の認知度について、「聞いたことがあり、内容もよく知っている」(2.5%)と「聞いたことがあり、内容もある程度知っている」(5.2%)と「聞いたことはあるが、内容までは知らない」(17.3%)を合わせた“聞いたことがある”と答えた人の割合が25.0%となっている。一方で、「聞いたことがない」と答えた人の割合は73.4%となっている。

(5) 将来の世代に良好な環境を引き継ぐために県が最も取り組むべき課題
「廃棄物の減量化やリサイクルの推進」が32.6%



将来の世代に良好な環境を引き継ぐために県が最も取り組むべき課題について、「廃棄物の減量化やリサイクルの推進」と答えた人の割合が32.6%と最も高く、続いて「地球温暖化対策・低炭素社会づくり」(19.5%)、「自然環境や生物多様性の保全」(7.0%)の順になっている。

過去の調査結果との比較

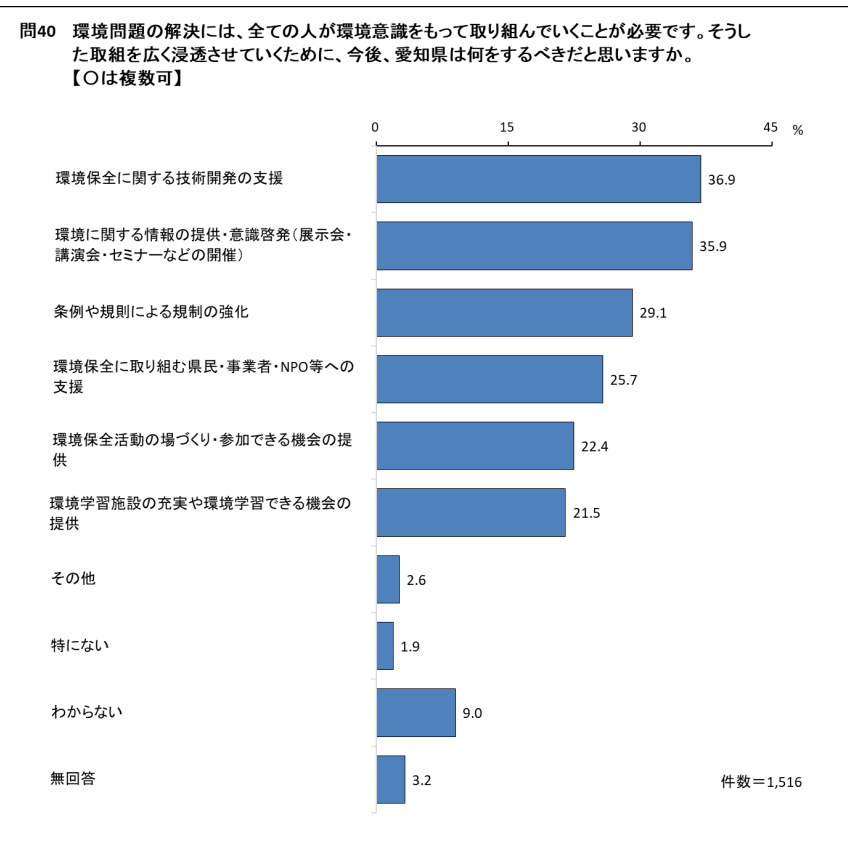


上位5位までの項目の比較

	1位	2位	3位	4位	5位
2014年調査	廃棄物	地球温暖化	自然環境	水質環境	自動車環境
2017年調査	廃棄物	地球温暖化	自然環境	水質環境	自動車環境
今回調査	廃棄物	地球温暖化	自然環境	自動車環境	水質環境

(6) 環境問題を解決するために県に求めること

「環境保全に関する技術開発の支援」が36.9%



環境問題を解決するために県に求めることについて、「環境保全に関する技術開発の支援」と答えた人の割合が36.9%と最も高く、続いて「環境に関する情報の提供・意識啓発（展示会・講演会・セミナーなどの開催）」（35.9%）、「条例や規則による規制の強化」（29.1%）の順となっている。